

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

- ① 教科に関する調査：()内は問題数
 - 小学校：国語(全14問)、算数(全14問)
 - 中学校：国語(全10問)、数学(全16問) 英語(21問)
※本年度より、従来のA問題(知識)とB問題(活用)を一体的に問う形で実施
- ② 質問紙調査
 - 児童生徒質問紙・・・児童生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
 - 学校質問紙・・・学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備等に関する調査)

(3) 調査対象

- ① 小学校(義務教育学校前期課程を含む)：53校(6年生 2,714名)
- ② 中学校(義務教育学校後期課程を含む)：28校(3年生 2,700名)

2 調査結果の公表

- 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)
- 各教科における結果と課題及び改善策
- 質問紙調査の結果と改善策(本市の特徴を表す項目を抜粋)

学校においては、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の育成のほか、豊かな心や健やかな体の育成にも取り組んでおり、大きな成果をあげているところです。本調査の結果は、特定の教科の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありませんが、上記調査目的をふまえ、これからも保護者や市民の皆様と連携し本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

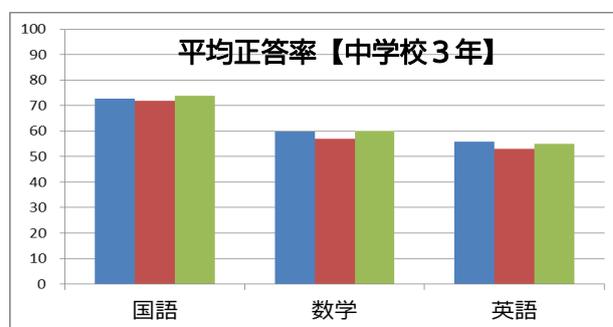
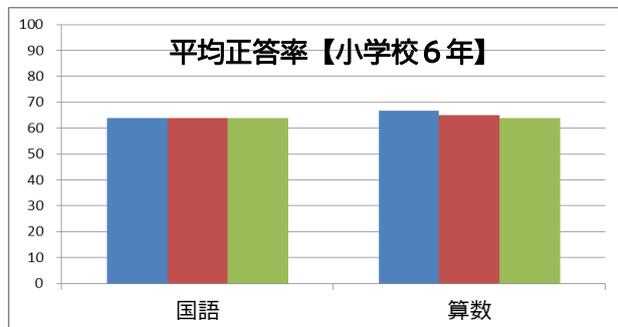
3 調査結果

(1) 結果概要

今回の調査における郡山市児童生徒の平均正答率は、以下のような結果となりました。

- 小学校6年 … 国語が全国平均と同程度で、算数は全国平均を下回っています。
- 中学校3年 … 国語が全国平均をやや上回っており、数学、英語は全国平均と同程度となっています。

(2) 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)



教科	国語	算数
問題数	14	14
全国	63.8%	66.6%
福島県	64%	65%
郡山市	64%	64%

教科	国語	数学	英語
問題数	10	16	21
全国	72.8%	59.8%	55.9%
福島県	72%	57%	53%
郡山市	74%	60%	55%

(3) 結果と課題、改善策

* 学力調査の実際の問題については、国立教育政策研究所のウェブサイトをご参照ください。
(URL <https://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>)

① 本市における各教科の結果と課題、改善策

【小学校6年】

	結果	課題	改善策
国語	平均正答率は、全国と同程度となっています。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国比+2.4で、全国を上回っています。「話すこと・聞くこと」の領域は全国比+0.6で、全国と同程度です。	目的や意図に応じて、図表やグラフを用いたり、自分の考えの理由を明確にして書いたりすることに課題があります。また、学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことにも課題があります。 *問題番号 ・ 1一 ・ 1三 ・ 1四(1)	言語活動を行う際に、児童自身が活動の目的や意図をしっかりと意識することができるようにします。また、自分の考えを、根拠や理由を明確にして書く場面や、目的や意図に応じて表現を工夫する場面を多く設けます。さらに、文字として漢字を覚えるだけでなく、熟語の意味も理解するなど、文章の中で正しく使えるように指導します。
算数	平均正答率は全国比-2.6で、全国を下回っています。4領域すべてにおいて、全国平均を下回っており、特に「量と測定」が-3.4で、全国平均を下回っています。	「量と測定」の領域では、2つのグラフの特徴や傾向を関連付けて考察したり、表現したりすることに課題があります。「数量関係」の領域では、示された除法の式の意味の理解に課題があります。 *問題番号 ・ 2(3) ・ 3(4)	日常生活の場面を用いて、2つの数量の組について、基準量を1とみたときに、比較量がどれだけに当たるかを図や式で表すなど、2つの数量の関係どうしを比べた結果を考察する活動を設定します。また、除法が用いられる場面において、式を読み取る活動を設定し、示された式が何を表しているのか考察する活動を多く設定します。

【中学校3年】

	結果	課題	改善策
国語	平均正答率は全国比+1.2で全国をやや上回っています。「読むこと」の領域は全国比+1.6で全国をやや上回っています。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国比+1.1で全国をやや上回っています。	「話すこと・聞くこと」について、相手に分かりやすく伝える表現について理解することや、話し合いの話題や方向性を捉えて自分の考えを持つことに課題があります。また、「読むこと」については、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題があります。 *問題番号 ・ 1二 ・ 2二 ・ 2三	適切に情報を取り出し、それを根拠にして自分の考えを表現する活動を日々の授業で実践します。それぞれの領域における言語活動を行う際には、目的や意図を生徒自身が把握した上で、根拠や理由を明確にして自分の考えを書いたり話したりする場面を設定します。また、授業の中で学んだことを振り返る際に、その目的や意図に到達しているかどうかを振り返るように工夫します。

<p>数学</p>	<p>平均正答率は全国比+0.2で、全国と同程度です。「数と式」の領域では全国比+2.0で、全国を上回っていますが、「資料の活用」の領域では全国比-2.1で、全国を下回っています。</p>	<p>「関数」の領域では、日常生活の事象を考察する場面において、グラフを事象に即して捉えることや、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。「資料の活用」の領域では、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。</p> <p>*問題番号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 (1) ・ 6 (2) ・ 8 (2) 	<p>具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べる活動や、関数関係を見だし考察する活動を多く設定し、関数に対する理解を深めます。また、表やグラフを用いてデータの傾向を捉える場面では、代表値や散らばりに着目して様々な視点から多面的に分布を捉える機会や、生徒が自分の予測や判断について根拠を明らかにして説明する機会を多く設定します。</p>
<p>英語</p>	<p>平均正答率は全国比-0.9で、全国と同程度となっています。領域別の全国比では、「聞くこと」が-0.9、「読むこと」が+0.9、「書くこと」が-1.7でした。「読むこと」と「聞くこと」は全国とほぼ同程度で、「書くこと」については全国をやや下回っています。</p>	<p>「聞くこと」では、聞いて把握した内容について適切に応じること、「読むこと」では、書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう話の内容や書き手の意見などをとらえることに課題があります。「書くこと」では、一般動詞の一人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと、そして与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに課題があります。</p> <p>*問題番号</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 ・ 8 ・ 9 (2) ② ・ 10 	<p>Can-Do リストの作成・見直しを通じて、英語を用いて何ができるようになるかをはっきりとします。また、言語材料と言語の使用場面を密接に関連させたり、言語の使用場面のみを与えてそれにふさわしい表現を即興的に選択・表現したり、より正確に英語を表現したりする活動を位置付けていきます。</p> <p>授業が、実際に英語を用いてコミュニケーションを行う場として位置付けられるよう、語学指導を行う外国人を効果的に活用する学習活動を設定します。</p>

(4) 質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が80%を上回っている主な項目】

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	95.5	97.1	94.3	95.1
朝食を毎日食べていますか	94.9	95.3	93.3	93.1
学校のきまりを守っていますか	92.7	92.3	95.2	96.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	93.8	95.2	93.3	94.3
国語の勉強は大切だと思いますか	93.5	93.0	92.1	91.0
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.6	91.6	93.7	92.8
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか	93.1	95.2	92.0	93.9
算数・数学の勉強は大切だと思いますか	94.3	93.7	84.4	84.2
人が困っているときは、進んで助けていますか	86.8	87.9	85.0	85.9

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が 50%を下回っている主な項目】
 (小・中どちらかあるいは両方が 50%を下回っている主な項目)

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
今住んでいる地域の行事に参加していますか	71.6	68.0	41.8	50.6
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	58.2	54.5	38.6	39.4
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	40.4	38.4	36.8	35.5
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか *月 1 回以上と答えた児童生徒の割合	50.0	40.5	24.5	20.4
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）* 30分以上と答えた児童生徒の割合	42.0	39.8	28.9	27.0
新聞を読んでいますか	13.8	19.0	8.1	8.3

90%以上が、いじめはどんな理由があってもいけないと答え、85%以上が、人が困っているときに進んで助けると答えていることから、児童生徒に「思いやり」などの豊かな心が育っていることがわかります。朝食を食べてから登校している児童生徒や毎日同じくらいの時刻に起きている児童生徒が多く、さらに学校のきまりを守っていると答えた割合が 90%を超えていることから、節度を守ることや、基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえます。

学校図書館の活用を含めた読書活動の充実、本市で行っている「新聞活用事業」などによる新聞を読む習慣の育成に努めてまいります。また、家庭でも、読書習慣や自分で計画を立てて勉強する習慣（自己マネジメント力）の育成を図るよう、保護者に呼びかけていきます。さらに、郷土を学ぶ体験学習などを通し、児童生徒の地域への関心を高めてまいります。

② 学校質問紙

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が 90%を上回っている主な項目】

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
職場見学や職場体験活動を行っていますか	100	99.9	100	99.9
教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	100	97	100	94.9
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	98.2	95.4	100	93.4
平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	98.1	97.3	100	95.7
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか	98.1	98.8	100	98.6
教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	100	94.4	92.9	89.9
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	100	96.6	92.9	95.2

【「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が 70%を下回っている主な項目】
 (小・中どちらかあるいは両方が 70%を下回っている主な項目)

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	94.3	94.9	64.3	91.4
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	66	79.2	57.1	67.5

職場見学や職場体験活動は、全小・中学校で行っています。各学校では、児童生徒の実態や学力調査の分析結果等に基づき、教育課程の改善や児童生徒の活用力を高める授業改善に努めています。また、本市においては、教育研修センターを中心に、教職員のニーズに応じた研修を組織的、継続的にを行い、授業力向上に取り組んでいます。

郡山市では、学校運営協議会を設置し、地域とともにある学校づくりをめざす体制整備を現在進めています。さらに、地域教育懇談会を 2030 年度までに全ての中学校区で実施し、保護者や地域住民と、教育施策や教育課題について語り合う場を設けていきます。

(5) 各学校における改善策等

- ① 各学校では、本市の結果分析や各教科の改善策の他、自校の問題毎、領域別、問題の類型別の正答率など、より詳細な分析を通して、「基礎学力向上プラン」の見直しや日常の授業改善を図り、児童生徒一人ひとりの学力の向上に努めます。
- ② 11月18日に予定している「第2回郡山市学力向上支援事業全体会議」において、学力向上に有効だった各学校の対策や取組等について、中学校区や全体で協議することにより、小中学校が連携して指導方法の改善に役立てます。
- ③ 受験者に配付される個人票を活用し、児童生徒が、これまでの学習を振り返り、成果と課題を明らかにしたり、改善のための目標を明確にしたりする機会を設けることにより、自分で学習や生活を改善する力である「自己マネジメント力」を育成します。

【個人票のイメージ】

平成31年度全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果

学校名	個人番号	組	番号	氏名
2500002小学校	5038111	1	1	

国語

正答数
9 / 14問
全体の平均正答数
8.9問

●全国の状況 (正答数ごとの児童の割合)

学習指導要領の領域等	正答数	全体の平均正答数
A 話すこと・聞くこと	1 / 3問	2.2 / 3問
B 書くこと	2 / 3問	1.6 / 3問
C 読むこと	3 / 3問	2.5 / 3問
伝 伝統的な習俗文化と国語の特質に関する事項	3 / 5問	2.7 / 5問

問題形式	正答数	全体の平均正答数
選択式	5 / 7問	5.3 / 7問
短答式	3 / 4問	2.0 / 4問
記述式	1 / 3問	1.7 / 3問

●出題内容
国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な習俗文化と国語の特質に関する事項」に関する内容について出題しています。

問題番号	問題の内容	結果	全体の正答率 (%)	学習指導要領の領域等	学習指導要領の領域等				問題形式	
					A	B	C	伝		
1	一 公共電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選ぶ	○	71.2	5・6		★			★	選択
	二 公共電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公共電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選ぶ	○	63.0	5・6		★			★	選択
	三 公共電話について調べたことを【報告する文章】の [] に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	×	28.9	5・6		★				記述
	四 (1) ア 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [] 部分アを、漢字を使って書き直す(調査のたいししょう)	○	42.1	5・6					★	短答
	四 (1) イ 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [] 部分イを、漢字を使って書き直す(友達にかざらす)	○	69.5	5・6					★	短答
	四 (1) ウ 公共電話について調べたことを【報告する文章】の中の [] 部分を、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	○	35.8	5・6					★	短答
	四 (2) 公共電話について調べたことを【報告する文章】の [] の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	×	48.0	3・4					★	短答
2	一 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の [] アに入る、[] 欄に思ったこと①に対する答えとして適切なものを選ぶ	○	80.8	5・6				★		選択
	一 食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の [] イに、[] 欄に思ったこと②に対する答えになるように考えて書く	○	76.0	5・6				★		記述
	二 縮干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選ぶ	○	88.3	5・6				★		選択
3	一 豊福人への【インタビューの様子】の [] アに入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選ぶ	○	81.4	5・6	★					選択
	二 豊福人への【インタビューの様子】の [] の場面における、質問の工夫として適切なものを選ぶ	—	67.6	5・6	★					選択
	三 【インタビューの様子】の [] イに、豊福人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	—	68.3	5・6	★					記述
	四 ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の [] ウに入る適切なものを選ぶ(留より僕れよ)	—	73.0	3・4					★	選択

※「学習学年」とは、問題に関連する学習指導要領の内容が示されている学年を指したものです。

○：正答、×：誤答、—：無解答

* 都道府県ごとの正答率については、下記の一覧をご参照ください。

出典：国立教育政策研究所ウェブページ (<https://www.nier.go.jp/>)

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査【小学校】

平均正答率 一覧

都道府県別（指定都市を含む）

※都道府県（指定都市を含む）の平均正答率は、公立のみの数字である。

※平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県・指定都市別の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなり、過年度の調査結果からの推移は表示されない。

	国語 (%)	算数 (%)
	平成31年度（令和元年度）	平成31年度（令和元年度）
全国 （国公立）	64.0（9.0問/14問）	66.7（9.3問/14問）
全国 （公立）	63.8（8.9問/14問）	66.6（9.3問/14問）
北海道	63	64
青森県	70	67
岩手県	67	66
宮城県	62	65
秋田県	74	70
山形県	66	65
福島県	64	65
茨城県	66	66
栃木県	64	65
群馬県	65	65
埼玉県	64	66
千葉県	63	66
東京都	65	70
神奈川県	61	67
新潟県	68	66
富山県	68	69
石川県	72	72
福井県	72	69
山梨県	62	66
長野県	64	66
岐阜県	63	65
静岡県	65	66
愛知県	59	65
三重県	64	67
滋賀県	61	65
京都府	66	68
大阪府	60	66
兵庫県	62	67
奈良県	60	66
和歌山県	64	66
鳥取県	63	66
島根県	62	65
岡山県	64	65
広島県	66	68
山口県	68	67
徳島県	63	65
香川県	65	68
愛媛県	67	68
高知県	64	68
福岡県	65	67
佐賀県	64	66
長崎県	61	65
熊本県	65	66
大分県	67	67
宮崎県	64	64
鹿児島県	66	65
沖縄県	68	68

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査【中学校】

平均正答率 一覧

都道府県別(指定都市を含む)

※都道府県(指定都市を含む)の平均正答率は、公立のみの数字である。

※平均正答率の微小な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県・指定都市別の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※全ての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となったため、従来のAB区分がなくなり、過年度の調査結果からの推移は表示されない。

	国語(%)	数学(%)	英語(%)
	平成31年度(令和元年度)	平成31年度(令和元年度)	平成31年度(令和元年度)
全国(国公立)	73.2 (7.3問/10問)	60.3 (9.7問/16問)	56.5 (11.9問/21問)
全国(公立)	72.8 (7.3問/10問)	59.8 (9.6問/16問)	56.0 (11.8問/21問)
北海道	72	58	54
青森県	73	61	55
岩手県	74	56	52
宮城県	74	58	53
秋田県	78	65	57
山形県	73	58	53
福島県	72	57	53
茨城県	75	60	56
栃木県	73	59	55
群馬県	73	60	57
埼玉県	73	59	56
千葉県	72	58	56
東京都	74	62	59
神奈川県	73	59	59
新潟県	74	60	55
富山県	76	65	57
石川県	77	65	58
福井県	77	66	59
山梨県	75	60	55
長野県	73	60	54
岐阜県	75	61	57
静岡県	75	62	58
愛知県	73	62	57
三重県	72	60	56
滋賀県	70	57	55
京都府	73	61	56
大阪府	70	58	56
兵庫県	73	62	58
奈良県	72	59	56
和歌山県	70	59	55
鳥取県	73	60	54
島根県	73	57	53
岡山県	73	60	54
広島県	74	60	56
山口県	74	61	55
徳島県	70	59	57
香川県	73	60	55
愛媛県	74	62	55
高知県	71	58	52
福岡県	72	59	54
佐賀県	71	57	51
長崎県	73	60	54
熊本県	72	58	53
大分県	74	61	55
宮崎県	71	59	55
鹿児島県	70	57	53
沖縄県	68	53	50